

Ⅱ. 入雛準備

Ⅱ－1. 除糞～水洗・消毒

鶏舎内外と農場内の衛生管理は、飼養管理の基本です。

除糞・水洗・消毒並びに場内の除草は、雛導入までに完璧に終了しておいて下さい。

1) 鶏舎内の管理

(1) 除糞

- ① 出荷終了後、出来る限り速やかに除糞を実施します。

鶏が居なくなると病気を媒介する昆虫は、壁に入って隠れてしまいます。

- ② 鶏糞を搬出後、ゴミ等が残らないように掃き出します。

場内の汚染を少なくし、また周囲への汚水量を減らしましょう！

- ③ 鶏舎の殺虫対策を実施します。

殺虫剤を散布する時期は、殺虫剤の種類によって、鶏舎の水洗前と入雛前の敷料搬入後に散布する場合があります。

(2) 水洗

一度の水洗でなく二度洗いが効果的！

- ① 電気系統の防水を充分考慮し、配電盤内のホコリはコンプレッサーで吹き飛ばします。
- ② 水洗は、鶏舎の消毒効果を上げるための基本です。時間をかけて十分な水量を使い（坪100ℓ以上）、徹底的に汚れを落とします。
- ③ 動噴や、スチームクリーナーで噴射圧をかけて洗い流しますが、床面のブラッシングを行うとより効果的です。

有機物が残っていると消毒薬の効果は発揮されません！

- ④ 鶏舎内の天井、壁、床はもちろん、天井のはり、給餌・給水パイプの上側、ライトトラップ（遮光板）やクールセルパッド内外も洗浄して下さい。ウインドレス鶏舎の入気口や排気ダクト等も忘れずに洗浄します。
- ⑤ オープン鶏舎のカーテンは、内側と外側を洗浄します。
- ⑥ 鶏舎の外回りを洗う前に、側溝に溜まった汚物を除きます。

**汚物の飛散の防止は大切です！
そのままでは、せっかくきれいにした鶏舎内が再汚染されます！**

- ⑦ 給餌・給水器等で、外へ出せるものは全て出して水槽で浸した後、水洗消毒します。ニップルドリンカーは配管内に汚れが溜まっています。
- ⑧ 給水設備（給水器、給水パイプ、配管、サブタンクの中等）の洗浄消毒をします。またクールセルの貯水タンクのヌルや付着物をきれいに洗浄します。
- ⑨ ネスト・スラット・マット・集卵ベルト・樋蓋は細部にわたり洗浄します。前ロットにてワクモ等の外部寄生虫が発生した場合には特に、念入りに洗浄します。

外部寄生虫についてはXI. 補足 P83・84 をご参照下さい。

(3) 消毒

- ① 目的にあった消毒薬を使用（希釈倍率、使用上の注意）にそって正しく使用します。
- ② 各種消毒薬の性質を理解し、より消毒効果をあげるとともに、作業する人の健康への配慮も大切です。

薬剤の濃度はもちろん、希釈水の温度、pH 等も効果に影響します！

作業時は、マスク、ゴム手袋、メガネ等での保護を忘れないように！

(4) 石灰塗布（床面の消毒）

石灰塗布は、その強いアルカリにより、床面消毒に効果的です。コンクリートのひび割れ等、汚れが残り、消毒することが難しい部分を埋め込みます。

<実施例>

水(9)に生石灰(1)を混合攪拌し、石灰乳として、4~5 ㎖/坪を目安として、動噴やバケツを使い、床面全体に塗布します。割れ目部分には、特に注意して埋め込みます。

攪拌時にかなりの熱が発生するので少しずつ水の中に溶かし込みます！

強いアルカリ液<pH12 以上>になるので、雨がっぱ、ゴム手袋、メガネ、マスク等で、目や皮膚に付かないように保護します！

消毒薬の使用方法（例）

器具関係：逆性石鹼又は両性石鹼などを規定濃度で実施します。

鶏舎内：（以下をご参照下さい）

- ①逆性石鹼又は両性石鹼の規定濃度 15リットル以上／坪 噴霧消毒
苛性ソーダを0.1%添加すると消毒効果が上がります。

目や肌につかない様に取り扱いには充分注意して下さい。

- ②ヨード剤の規定濃度 15リットル以上／坪 噴霧消毒
③オルソ剤の規定濃度 15リットル以上／坪 噴霧消毒
④生石灰の床面塗布 水(9)：生石灰(1) 混合攪拌し石灰乳 4～5^{リットル}／坪
⑤塩素系の規定濃度 煙霧又は散霧消毒／鶏舎内全体消毒

防毒マスク着用の遵守

鶏舎外：草刈と顆粒状生石灰の散布（3～5kg／坪）

2) 鶏舎外の管理

- (1) 犬走り、U字溝を整備し、排水を良くします。
- (2) 鶏舎周囲の汚物は除去し、不要な器具等は整理、処分します。
- (3) 雑草は必ず除去し、風通しを良くします。
- (4) 鶏舎周囲が土壌の場合には、くまなく粒状の生石灰3～5kg／坪を散布します。
その際、周囲環境に充分配慮して下さい。

* コクシジウムのオーシスト、クロストリジウム、マレック病、ガンボロ病のウイルス等、また食中毒原因菌など鶏舎周囲の土壌に長期間生存する病原体が数多くあります。これらの感染防御には、鶏舎外の管理が益々重要になってきています。

3) 防疫（Ⅷ. 防疫 P70 参照）

- (1) 入雛前の農場外への鶏糞搬出
- (2) 鶏糞倉庫と鶏舎間の隔離管理
- (3) 野鳥・野獣の侵入防止
* 鶏舎の金網、農場周囲フェンスの修繕確認
- (4) 農場内外の除草
- (5) 農場内用の作業着、長靴、帽子、手袋等の準備
- (6) 事務所、更衣室の整理・整頓、消毒
- (7) 車輛消毒用の動力噴霧装置・消毒液の準備
- (8) 飼料、雛搬入業者用長靴の準備・消毒

Ⅱ－２．入雛準備のチェックポイント

1) 設備、機材の点検

給餌器、給水器、ブルーダー、ボイラー、換気扇、扇風機、送風ファン、電球、電気系統、発電機、機械設備、カーテン、金網、警報装置等の保守点検を実施して、修繕と補充を早めに行います。

入雛開始後に、こんな筈では・・・こんなトラブル発生していませんか？

2) 確認事項

- (1) 餌付け用飼料、ワクチン、薬品、ガス、重油等の数量
- (2) 導入雛の母鶏週令、搬入到着日時
* 母鶏週令に応じた舎内温度設定にします。

農場独自のチェックリストを作り、モレが無いように！

3) 敷料の搬入、チックガード、予備加温

(1) 敷料と敷紙

- ① 新しく良く乾燥した敷料を使用します。古く湿った敷料は「カビ性肺炎」と腹部を冷やす原因になります。
- ② 敷料の厚さ
* ブルーダー給温の場合：チックガード内と全体に広げた時に使用する敷料も鶏舎内に持ち込んで置きます。雛が導入されてからの器具、機材等の持ち込みは最小限度にして下さい。

チックガード内外 季節を問わず 15cm 以上

特に、チックガード内は厚く敷き、雛の腹部の冷えを防ぐことが大切です！

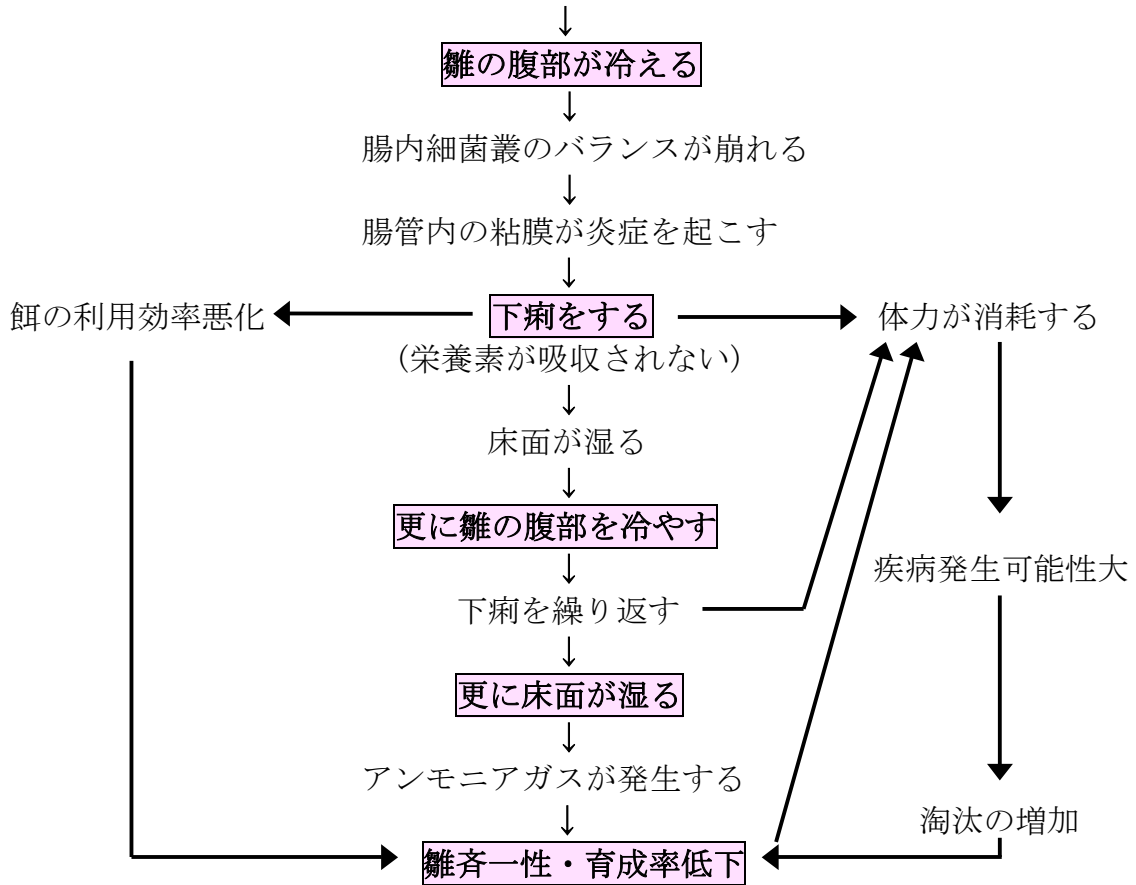
床面給温の場合：床の表面が隠れる程度に、平らにならして敷きます。

- ・ 給温パイプ上：32～33℃ 給温パイプ間：30～31℃
- ・ 床面にこびり付く鶏糞の量を少なくします！
- ・ 出荷後の除糞、水洗を容易にします！

- ③ 敷紙は衛生的なものを、ガード全体（加湿部を除く）に敷きます。

ブルーダー給温の場合に何故、敷料を厚く敷くか？

チックガード内の敷料が薄い



チックガード内の敷料が厚い

雛の腹部が温まる

- ① 遺残卵黄の吸収が良い
- ② 餌の消化が良い (栄養吸収が良い)
- ③ 鶏糞状態が良い (床面状態が良い)

- ① 初期落ちが減少
- ② 疾病が減少する
- ③ 雛の体重…斉一性向上

『あなたならどちらを選びますか？』

ここがポイント！

床面給温方式、ブルーダー給温方式共に雛の腹部を冷やさない管理が大切です。
床面給温方式は雛の日令に応じた湯温調節が大切です。

入雛から7日間(特に3日間)は、絶対に雛の腹部を冷やさないこと！！

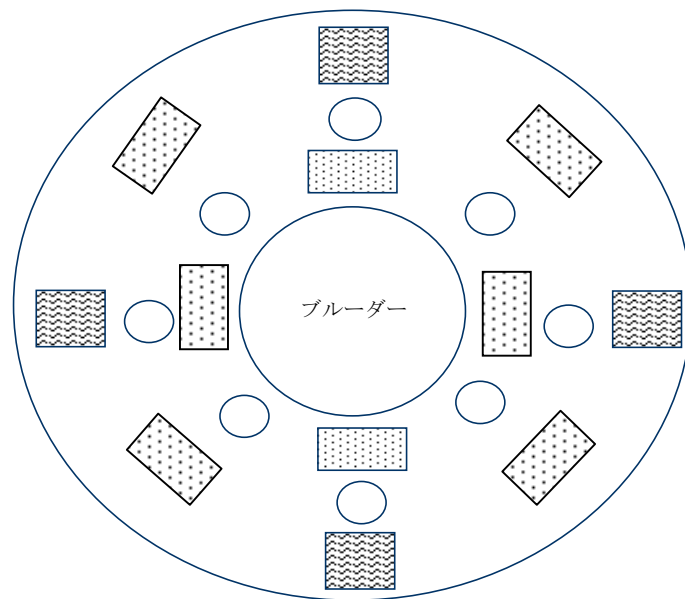
(2) チックガードの準備と管理の目安

日令	700羽当たりのチックガードの直径(m)			1,000羽用ブルーダーの場合	
	オープン鶏舎			ウインドレス鶏舎	
	冬	春・秋	夏	春・秋・冬	夏
0	3.3	3.6	4.0	3.6	4.0
2	4.0	4.6	4.8	4.6	4.8
5	4.5	5.0	半開	5.0	半開
7	5.1	半開		半開	
11	半開		全開		全開
14		全開		全開	
18	全開				

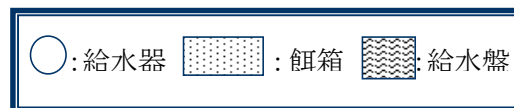
ガードの拡張は必ず午前中に実施します。
ガード拡張は、雛の生活環境が変化することと捉えて下さい。

- ① 給温方式やブルーダーの能力によってチックガードの広さを変えますが、夏は比較的広く、冬は狭くセットします。
- ② チックガードはオープン鶏舎では南側、横引きウインドレス鶏舎では排気側、縦引きウインドレス鶏舎では前後に広げます。
- ③ 丸型チックガードの直径が5m以上の時は2つのチックガードを合わせて、ひとつにします(ひょうたん型になります)。
- ④ チックガードの直径は、雛や敷料の状態を観察して調整します。
- ⑤ チックガードを広げると共に、ブルーダーの高さを調整します。

⑥ 1ブルーダー（1,000羽用） 当り 700羽程度となるようにガード設定します。
※入雛時の模式図：700羽／ガードの例



チックガード

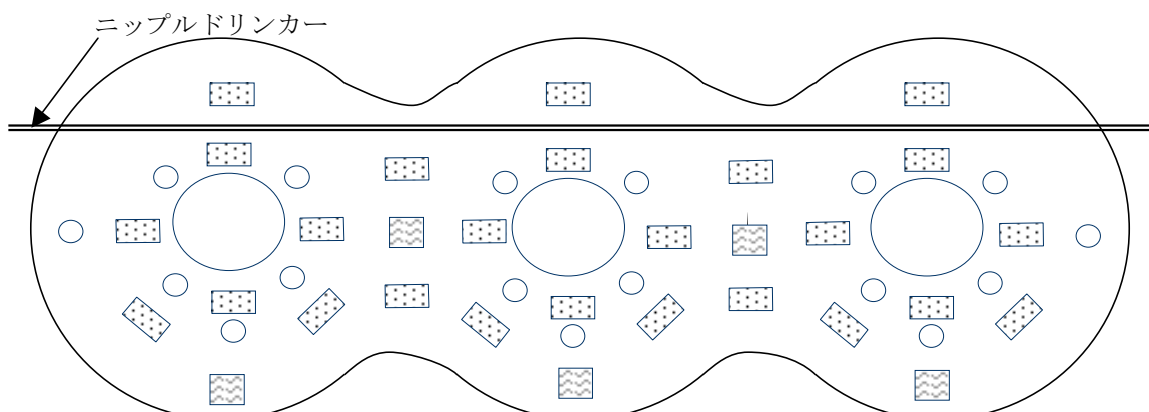


餌付け用のチックガードを作るに当り、3ブルーダー1ガード方式もあります。
但し、隙間風や冬期は防寒対策をしっかりと下さい。

〈3ブルーダー1ガード育雛飼育の利点〉

- 床面（＝雛の生活帯）を全体的に暖め易い。
- 雛個々が適温帯を選択し易い。
- 給餌・給水スペースが増加し、追加もし易い。
- 空気交換が容易である。
- 雛の観察が容易である。
- ガード拡張時のストレスが軽減出来る（ガード拡張＝環境変化）。
- 床面管理が容易である。
- 照度のバラツキが発生しない＝電灯追加が容易＝影が出来にくい。
- ニップルラインとの併用がし易い。

3ブルーダー1ガードの例（ニップル併用）：



⑦ 雌雄別々にチックガードを作り、育雛します。

⑧ 小雛別飼育用チックガードの準備

あらかじめ、もう一つガードを作っておき、デビーク実施時に小雛を別飼育出来る様にしておきます（同一鶏舎内の導入羽数の15～20%を抽出）。

<利点>

- 小雛に対して餌の増量がし易い。
- 餌付け用飼料などの給与期間を延長させることにより基礎体力と体重を追いつかせる事が容易です。

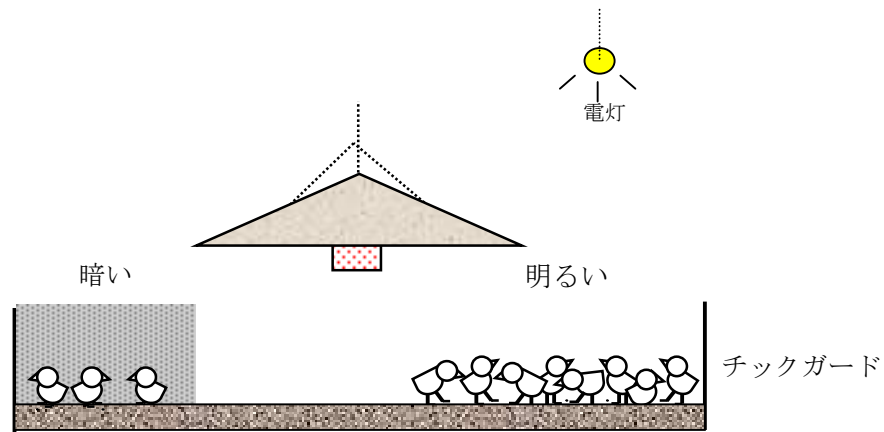
⑨ 照明の注意点

影を作らないようにしましょう！

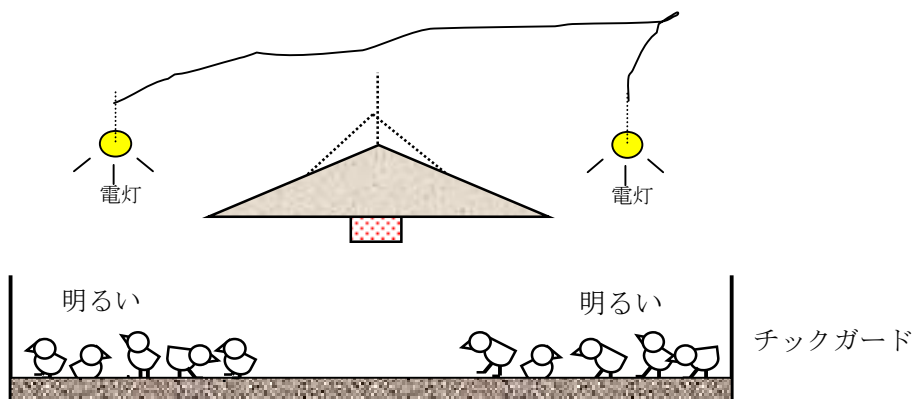
※ ガード内は50～60ルクスを確保

※ 暗い場所の雛は動かない

悪い例)



良い例) 電灯の追加および配置の変更



(3) 給温

雛の餌付け時に、敷料（床面）全体が適正な温度になる様に早めに給温を開始します。

予備加温の必要性：敷料内部を暖める為には予備加温が必要です。

高温による短時間の加温は敷料内部（＝床面）の加温につながりません。

雛のお腹を温める為に如何にすべきか考えて下さい！

○ブルーダー給温の場合

注 意 事 項	給温開始時期の目安
入雛時に敷料内部温度を 20℃以上 ガード当たりの雛羽数はブルーダー能 力の 70%を目安とする。 ブルーダー直下は 40℃	夏：1日～1日半前の点火 春・秋：1日半～2日前の点火 冬：2日～2日半前の点火

○床面給温の場合

注 意 事 項	給温開始時期の目安
給温開始時の湯温は低めで開始する。 鶏舎全体を暖める。 ↓ 入雛2日前から湯温を上昇させます。 入雛時の床面温度の目安 給温パイプ上：32～33℃ 給温パイプ間：30～31℃	夏：4日前の給温開始 春・秋：5日前の給温開始 冬：7日前の給温開始

4) 給餌器、給水器の準備

(1) 給餌器

① 加湿部を除き、全面に衛生的な餌付け用の敷紙を敷きます。

雛がどこにいても一斉に餌を食べられる様にします。

② 40×50×3cm（縦・横・深さ）程度の餌付け箱を 80～100羽／1個準備します。

（音のする材質を選ぶ：音で雛は採食行動に移り易くなります）

(2) 給水器

① 餌付け時用として育雛用給水器を 80羽当たり 1個と、補助用水盤を準備します。

* 餌付け時は特に、水面は雛の目の高さより低くするのがポイントです。

② 雛に与える水は雛到着の前日に準備します。鶏舎内に準備して下さい。
雛にとって冷たい水は下痢を誘発します（最低 20～25℃の水温）。

③ 自動給水器は 3～4日令以降、徐々に切り替えますが、最低 100羽／1個必要です。

ニップル給水器の場合は 8～10羽／1ニップル必要です。

* 雛の成長に応じて水位・水圧・高さ調節が大切な管理ポイントです。

Ⅱ－３． 雛到着までのチェックポイント

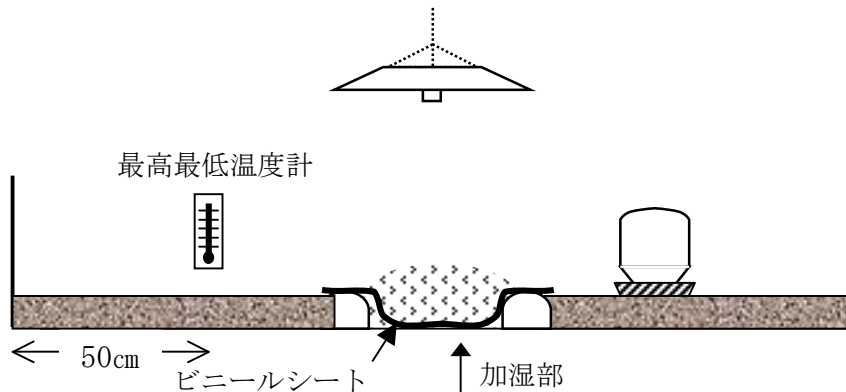
1) 温度管理

温度は大丈夫ですか？
 チックガード内の温度は 32℃
 (夏季を除き、チックガード外は 25～28℃を目安に)
 敷料は良く乾燥して内部は 20℃以上 ブルーダー直下 40℃
 床面温度は給温パイプ上で 32～33℃、給温パイプ間で 30～31℃

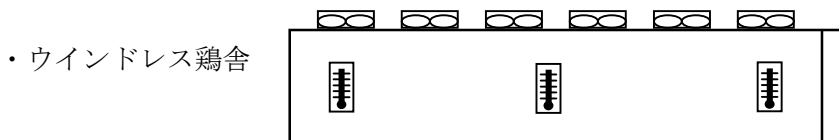
(1) 温度計の設置箇所

給温方式	温度計の設置場所
傘型ブルーダー	ブルーダーの脚の部分
パンケーキ型ブルーダー	チックガードの内側 50 cm 雛の頭の高さ
床面給温方式	給温パイプとパイプの間の床面 雛の頭の高さ

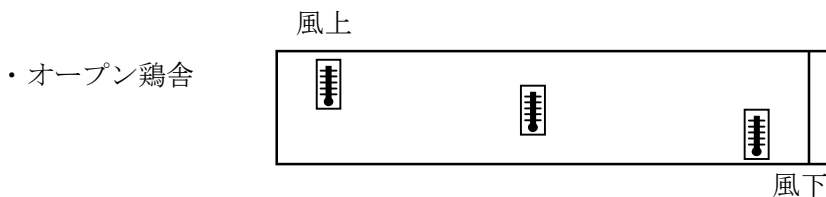
ガード内の温度計設置位置：パンケーキ型ブルーダー)



鶏舎内の温度計設置場所)



(例) : 最高最低温度計



- (2) チックガード外の室温は夏季を除き、25～28℃を目安にします。
- (3) チックガード内の床面(雛を離す場所)が充分温まっているか確認します。

* 温度が不足している場合

- 保温用カーテンの増設、隙間風対策の目張り徹底。
- 床面給温の場合は、湯温設定を上げる。ボイラー燃焼状態の確認。
- 補助温源の活用（ジェットヒーターや石油ストーブ等）。

2) 湿度管理

湿度は充分取れていますか？

- (1) ブルーダー下の給湿部に消毒薬を希釈した水を補給します。
- (2) チックガード外の床面に散水して舎内湿度を取ります。

散水した水がチックガード内に入らない様に！

3) 給水管理

水は飲み易く、が基本です。

給水関係は大丈夫ですか？
吊り下げロープは延びていませんか？
飲み水は温まっていますか？
(室温と同温にする為に、前日から給水器に入れておく。)

- (1) 自動給水器の水位(雛の目の高さで見える水位)、高さを点検します。
- (2) ニップルドリンカーの高さ、水圧、ニップルの目詰まりを確認します。
- (3) ウォーターカップ付きのニップルドリンカーはカップに水を溜めて置くと雛への飲水の学習が早く出来ます。

4) その他

- ・ 餌付け用の練り餌をする用具の準備は出来ていますか？
- ・ 雛搬入用具(台車、手かぎ等)の点検、消毒は完了していますか？
- ・ 温度計表示は正確ですか？
(バケツに水を溜めて温度計を入れ表示が全部同じ温度を示していますか？)
- ・ 鶏舎内用長靴と外履き用長靴は準備出来ていますか？
- ・ 清潔な農場内専用の着衣、帽子は準備できていますか？
- ・ 踏み込み槽と消毒薬は準備出来ていますか？
- ・ サービスルームは整理・整頓されていますか？
- ・ 日報・週報育成記録用紙は準備出来ていますか？

入雛準備は完了しましたか？

鶏舎内の {除糞・殺虫・水洗・消毒} 等の作業は完璧ですか？

飼料タンクの {水洗・消毒} 作業は完璧ですか？

ワクチン等の
準備はできていますか？
飼養管理の記入用紙は
準備できていますか？

